

# 令和6年度 瀬谷区地域福祉保健計画 地区別計画推進研修会 ＜報告＞



本年度は第4期瀬谷区地域福祉保健計画推進の4年目を迎え、いよいよ第5期計画の策定を進めていく年度です。今回は、第5期地区別計画の策定にあたり、改めて計画策定の意義や、策定までの動きについて理解を深めることを目的に、地区別計画推進研修会を開催しました。

## 研修会概要

- ＜日 時＞ 令和7年1月22日(水)13:00～15:00  
＜開催場所＞ 瀬谷区役所5階大会議室  
＜参加者数＞ 71名  
(内訳)地区別計画推進に関わる方々:34名  
地区支援チーム等:37名



## 研修会内容

### 地区別計画の意義と策定方法 ～第5期地区別計画策定に向けて～

＜講師＞

駒澤大学 文学部 社会学科 社会福祉学専攻 教授 川上 富雄氏

＜横浜市の地区別計画＞

地区別計画は地域課題解決のために地域住民主体で策定される計画です。横浜市では市内全地区で策定されており、全国的にも珍しく先駆的な取組です。

＜計画の進め方＞

計画の進め方は個別支援も地域づくりも手順は同じで、①課題を把握→②課題分析→③目標設定→④計画→⑤計画実施→⑥評価という形となっており、計画作りは「まちのあるべき像や思いと、住民共通の不安や生活課題の乖離を埋めていく作業」と言えます。目標を設定するにあたっては、課題の抽出は妥当だったのか、目標が高すぎているか等チェックすると良いでしょう。

＜なぜ地区別計画を策定する必要があるのか＞

ルールや決まり事ありきであったり、流行っているからという理由で実施される事業は地域の実態に合っておらず、活動が根付かない為、地域を個別的に捉え、地域ごとに何が必要なのかという視点を持つことが大切です。



## <社会福祉の考え方の変化>

社会福祉の理念・目標・考え方が、20世紀の「弱者に手を差し伸べ、保護・救済する」という考え方から、21世紀は「個人の尊厳が尊重され地域で主体的に自立生活を送る」あるいは「生きがいを持って暮らす」という自己実現保障」へと転換・拡大してきています。

全てを住民活動や地域福祉で解決するのではなく、命や生活の基盤を支える部分は行政サービスで、心や気持ちのニーズと言える、尊厳をもってより豊かにという部分は、共感原理に基づく、自助・共助が担うと良い部分です。

「福祉課題」「災害への不安」「担い手不足」など課題は広範ですが、全てつながっていることから、縦割り視点ではなく、様々な団体からの参加を得て、福祉も防災もまちづくりも一体的に話し合いましょう。



## 参加者からの声（アンケート結果から）

アンケート総数:41件

回答者の約9割の方から研修会の内容について「分かりやすかった」との回答をいただきました。

また、「研修内容を地区別計画策定に取り入れられそうか」という問いについては、半数以上の方から「取り入れられそう」との回答をいただき、地区別計画策定前に改めて策定の意義や策定にあたって留意すべきことについて理解を深める機会となりました。

<参加者からの声> ※一部を抜粋しています

- ・ニーズ把握からの計画を作ることが大事だと思いました。どちらかと言うと、今まで「何となく」浮かんだ目標で計画していることが多い気がしています。
- ・共感原理のお話し、原点だと思えます。
- ・他地区の話聞く機会もあり、勉強になりました。
- ・他の地区で何をやっているか、他の地区との情報交換も有益だと感じました。
- ・他の地区との話し合いの中で色々な意見が出ました。もう少し時間があれば具体的に内容をまとめていけたのかと思います。現時点で課題が出たので、今後話をまとめて考えていきたいと思えます。
- ・地域防災に関して、地福では具体的な目標になっていなかったのが取り込んでいきたいです。

その他、地域ニーズが多様化している為、目標をしぼる方法や、質疑応答の時間が欲しかったとの声もいただきました。